

1人1台タブレット端末を活用し、自ら課題解決につながる資料を選択して比較・関連させる学習

第6学年

世界に歩み出した日本

こんな子どもたちの姿が生まれました!

- 既習内容や複数の資料を主体的に関連付けて、課題解決を図ることができました。
- 仲間に向けて、即座に端末画面に考えを書き込んで説明することができました。

大型提示装置とタブレット端末による効果

導入で前時との関連付け、
対比できる資料をサーバに複数格納し、
日清・日露戦争の比較・関連を促す。

- ・前時の学習内容と本時の資料を提示し、児童の理解と関心を高める。
- ・個人追究の段階で、全ての資料をデータでサーバに格納し、自己選択できるようにする。



教師の指導のポイント

- 児童が主体的に資料を活用できるように、教師と児童がフォルダでデータを共有する。
- 学習内容の全体像が捉えられるように、端末上の資料を紙媒体としても板書に位置付ける。

協働学習支援ツールの活用による効果



児童自ら比べやすいように
資料を端末に表示させて、
日清・日露戦争の違いを書き込む。

- ・前時の学習した資料と同種の資料を準備し、比較して閲覧する機能を用いる。
- ・資料において着目した箇所に印や矢印を付けて、具体的な事実を捉えたり、関連付けたりする。

協働学習支援ツールを用いて、
ノートに整理した自分の考えを、
資料を示しながら提示する。

- ・資料から読み取った事実やそこから考えたことを根拠立てて学習ノートに記述する。
- ・自分の考えを仲間に関わりやすく伝えるために、追究の根拠となった資料を共有し、書き込みながら説明する。

課題に対して考えたことを、資料・事実・考え・理由の順で、学習支援ツールで書き込みながら示すことで、言語能力の育成につながります。



教師の指導のポイント

- 資料をタブレット端末で比較・関連させている児童の姿の画面を共有し、「〇〇さんは何に注目していますか？」などと、働かせている社会的な見方・考え方を広げる発問をする。